

- 上野図書館 ☎ 21-6868
- いがまち公民館図書室 ☎ 45-9122
- 烏ヶ原公民館図書室 (烏ヶ原会館内) ☎ 59-2291
- 阿山公民館図書室 (あやま文化センター内) ☎ 43-0154
- 大山田公民館図書室 (大山田教育センター内) ☎ 47-1175
- 青山公民館図書室 ☎ 52-1110

★新着図書紹介 (上野図書館)

■一般書

『平城京—平城遷都
一三〇〇年記念』
千田 稔/監修
今年710年の平城京(奈良の都)への遷都から1300年の記念の年です。794年の平安京遷都までの74年間に、平城京で起こった出来事や文化を図版や写真を交えて解説しています。

■一般書

『クラスでケータイ持ってないの僕だけなんだけど』
高橋 章子/著
著者は3児の母。中学2年生の次男が「みんなが持っている」から携帯電話を買ってほしいと言う。中学生に「ケータイ」は必要なのか?生のコミュニケーションが大事と考える著者が、息子との携帯電話をめぐる攻防戦を語ります。

■児童書

『しごとば (続)』
鈴木 のりたけ/作
プロ野球選手、漫画家、獣医師、花屋など、子どもたちに人気の職業の仕事をイラストで再現し、必要な道具や仕事の内容を紹介した本です。普段なかなか見ることのできない、あこがれの職業の仕事をのぞいてみましょう。

■児童書

『ジャングルめがね』
筒井 康隆/作
にしむら あつこ/絵
ジャングルめがねはふしぎなめがね。これをかけるとまわりの人たちがみんなジャングルの動物に見えてしまうのです。しんすけくんのお父さんはゾウ、おかあさんはシマウマ。他の人たちはどんなふうに見えるのかな?

4月の読み聞かせ

開催日	会場	時間	催物	*は読み手
10日(土)	上野図書館2階視聴覚室	14:00~30分程度	おはなしの会	
18日(日)	阿山公民館図書室読み聞かせ室	10:30~30分程度	読み聞かせ会	*読み聞かせボランティア「はあと&はあと」
20日(火)	阿山公民館図書室読み聞かせ室	10:30~30分程度	読み聞かせ会	*読み聞かせボランティア「はあと&はあと」
21日(水)	上野図書館2階視聴覚室	15:00~30分程度	えほんの森	*読み聞かせボランティア「よもよも」
21日(水)	青山公民館図書室絵本のコーナー	10:30~30分程度	大きな絵本の読み聞かせ会	
24日(土)	上野図書館2階視聴覚室	14:00~30分程度	おはなしの会	
24日(土)	大山田公民館図書室えほんのへや	10:30~30分程度	おはなしたいむ	*おはなしボランティア「きらきら」

★絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどをします

伊賀市の文化財 49

市指定有形文化財(書跡) 『旧楽音寺大般若経』

楽音寺は坂之下に所在した寺院で、伝存する『伊賀国楽音寺縁起』には、文徳天皇の勅願、円仁の開基と伝えられています。

楽音寺に関する史料は少なく、『伊賀国楽音寺縁起』以外には、『三國地志』所収の「伊賀国楽音寺住僧等謹言上」から建武年間(1334~1336)に守護の仁木義直が当地に城郭を構えたことが窺えるほか、『大乘院社雑事記』の文明6(1474)年9月18日条には、楽音寺薬師堂の修復と思われる勸進の記述が見られます。しかし、その後は廃絶状態となり、享保7(1722)年には西条にあった寺院の号を移して国分寺を称することになります。

この旧楽音寺に伝えられた大般若経が地元で大切に護持され、現在に伝えられています。本経は、本来は卷子装でしたが、現在は折本装に仕立てられ、全600巻のうち528帖(重複巻20帖)が残されています。製作は、天平19(747)年11月に、僧玄昉の追善のために弟子の善意が書写した経などを藍本とし、平安時代後期から末期にかけて比叡山東塔南谷蓮台房などで書写され、その後、室町から江戸時代に修復や、欠巻を

補うための加入が繰り返されたことが本経の奥書から窺えます。

本経が、いつ頃、どのようにして旧楽音寺に伝来したのか不明な点が多いのですが、奥書からは、文和3(1354)年までは安楽寺(滋賀県東近江市)に所蔵されていたことが分かるほか、大般若経を納めた唐櫃の銘文からは、文明13(1481)年に善勝寺(同市)に移されていたことが窺えます。

その後、時期は不明ですが、旧楽音寺の所蔵となり、享和3(1803)年、本堂の勸進の際には本経と思われる大般若経の転読がなされています。全600巻の大半が残され、その多くが平安時代に遡る写経である本経の宗教民俗としての資料的価値は極めて高いものといえます。また、近江国を転々とし、伊賀国へと移管されてきたという経過からは、当時の伊賀と近隣地域との文化的交流を示す資料ともいえます。

『旧楽音寺大般若経』は平成21年12月に市指定文化財に指定されています。生涯学習課文化財係

☎ 22・9681 FAX 22・9691



▲第20巻の奥書

天平19年、善意による玄昉追善の書写の記述(中央部分)。善意の書写した経典が本経の藍本となったようです。